

まちの話題

平成12年度 生産調整目標面積の配分決まる

目標1,276.88ヘクタール



県は、国が定めた「水田を中心とした土地利用型農業活性化大綱」に基づき、平成十二年度の水田農業確立対策を定め、各市町村に対し十一月二十六日に生産調整目標面積の配分を行いました。

白根市への配分面積は、昨年とほぼ同様で一、二七六・八八ヘクタールです。市では、農協等関係機関と推進方法の協議を行い、来年の一月末に、地区説明会を経て農家への配分を行う予定です。

この農業活性化大綱では、米の作付面積・生産数量等の配分方式になっていますが、平成十二年度に限り、今年と同じ面積規模と配分方法になりました。

今年も共通区域存続を強く要望

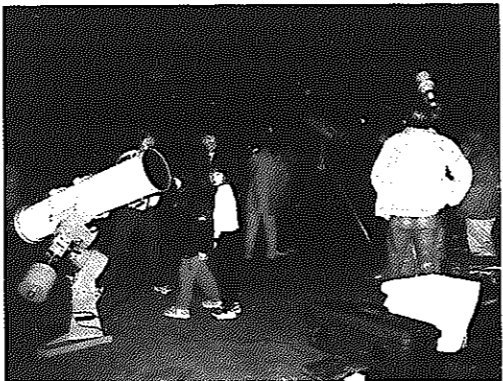
十二月五日、カルチャースセンターで、白根市小中学校保護者協議会と市が主催した「通学区区域を考える市民説明会」が行われました。

これまで白根市の子供たちは、地理的条件や生活圏、交通事情などから、共通区域として広域な範囲で高校を受験することができました。

しかし、県では学校の選択幅拡大などを目的に、県公立高等学校（普通科）の通学区区域の改正を行い、県内を八学区に分けて共通区域を廃止隣接学区への受験には入学枠が設けられることになりました。これは平

通学区区域を考える市民説明会
成十三年度の入試から実施されます。市民説明会には約七百人が参加。各中学校の保護者代表や白根北中学校の生徒などから「通学区区域の中で、通えるのは白根高校しかない」「怒りと不安でいっぱい。共通区域を残してほしい」「学校選択幅の拡大、交通事情などに配慮したとしてほしい」と、多くの意見が出されました。

これを受け、竹内市長は「通学区区域の変更は、白根市は理解できない。今後も県へ共通区域の存続を強く要望していきたい」と話しました。



見上げてごらん

第2回天体観望会
星を見る会

十一月十四日の晴れ渡った夜、白根中学校グラウンドで、星を見る会主催・白根地区公民館共催による「天体観望会」が行われました。

会長の樋口佳一さんは「星好き仲間で作った『星を見る会』。観望会を行うのは今年の夏に続いて二回目です。星を見る楽しさを子供たちに知って欲しいです」と話します。

参加した親子は約五十人。会員の説明を聞きながら空を見上げたり、四台の天体望遠鏡から見える木星や土星を交代でのぞいたりして、星の美しさに魅了されていました。

善意の心が集まりました

一戸一枚運動
茨曾根地区公民館



十一月二十四日、茨曾根地区公民館からおおよそ七百本のタオルと段ボール三箱もの古着が、特別養護老人ホームしなの園に贈呈されました。

「昨年、地区主催のボランティア体験教室で訪問したとき、タオルや古着が不足していることを知り、『一戸一枚運動』の取り組みをしました。どの家も協力的で、多くのタオルや古着を送ることができ、良かった」と地区公民館長の細川与一郎さん。

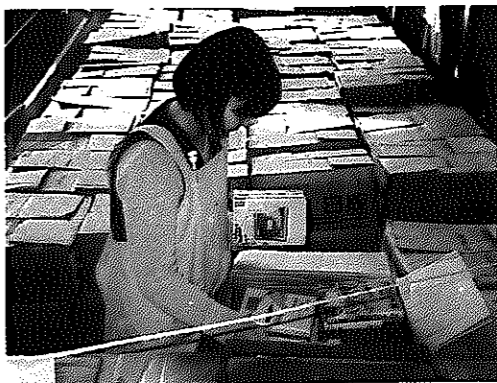
同園長の村井勇さんは「皆さんの善意を大切に利用させていただきます」と話していました。

ぱんぱん

白根学書館（Library）情報②
大忙しの
新図書オープン準備

現在休館中の図書館では、来年六月に白根学書館へ移転オープンのため、所蔵図書の確認や図書の装備・電算化などの作業を行っています。

新図書は、広さ約一、一五〇平方メートル。従来の二・五倍の広さで、子どもからお年寄りまで利用しやすいよう、児童用のかわいいテーブルを設けています。また、図書館のオープンに先駆けて移動図書館のサービスも始める予定です。



蔵書約七万冊で出発

新図書オープンに向けて、利用者の皆さんに魅力ある蔵書の充実に努めています。目標蔵書数は七万冊。そのため、従来の蔵書やサービスの不足を補うため、各方面からの協力を受けています。埼玉県越谷市立図書館からは中古の移動図書館車を譲り受けました。

また、国の少子化対策補助金を受けて児童書約三千四百冊、紙芝居舞台、ペピーカーなどの購入、移動図書館車の塗装・整備をする予定です。

さらに、市民の皆さんや、千葉県浦安市立図書館から一万五千冊余りの古書の寄贈を受けました写真。

図書館ボランティアを募集

寄贈本の受け入れに当たって、図書館では、図書装備を手伝ってくださるボランティアを募集しています。

装備作業は一人当たり一日に五十冊しか行えないため、二万冊の装備には延べ四百人の力が必要です。

準備した図書は、移動図書館車に積んで、小学校、保育園、地域生活センターの近隣に駐車ステーションを設け、貸し出しを行う予定です。

図書館づくりを手伝ってみませんか。ご協力をお待ちしています。

問い合わせ 市立白根図書館 ☎ 373・2810

子供に対する
親の責任を自覚

第36回新潟県小中学校
家庭教育研究会白根大会



十一月七日、白根第一中学校で「第三十六回新潟県小中学校PTA家庭教育研究会白根大会」が開催され、県内から約六百人が参加しました。

大会では「二十一世紀に向けての家庭教育のあり方」をメインテーマに十五の分科会に分かれ、家庭教育の大切さについて活発な意見を交換し合いました。

また、直木賞作家の村松友規さんによる講演会も行われ、村松さんの生い立ち、旅先での体験など、ユーモアたっぷりの話に参加者は終始笑顔で聞き入っていました。

歯科技士部門で銅メダル

柳博明さん（水道町第5）



十一月六日から八日にかけて千葉県で行われた第二十四回全国障害者技能競技大会（アビリンピック）。白根市から柳博明さんが新潟県代表として歯科技士部門に出場し、見事銅メダルを獲得しました。

「一九〇〇年代最後に、何かチャレンジしようと思った。金メダルを狙ったのですが残念です。しかし、大会中に定年を迎えた母へのいいプレゼントになりました」と柳さん。「障害者を持ちながら働いている人は積極的に参加してほしいです」と感想を教えてくださいました。